

# 弁当箱の少女 1 (体験版)

「食べないで！！お願い...」

弁当箱のおかずの中から体を半分起こし、手を組み哀願する小さな少女の姿に俺はビックリ仰天した！

(俺は白昼夢でも見ているんだろうか??)

俺の頭はクラクラした... が、もう一度気を取り直して自前の弁当箱の中を見た。

... 気の迷いでは無い！ 確かに、確かに、小さな少女が弁当箱の中に居て、俺の方を見上げている！

「お前はいったい、誰なんだ？」

頭がクラクラするが、とりあえず、俺は小声でそう聞くしかなかった。

「私は... わからない... 名前がわからない... どうして、ここにいるのかもわからない...」

少女は恐ろしく不安げな顔で俺を見上げてくる。

それは、そうだろう。

少女は、俺が今朝弁当のご飯の横のおかずスペースに入れたはずの、昨日の晩の残りのかなり大き目の焼き鮭の代わりとして、そこに居たのだから... 体長はおよそ15cmくらいだろうか？

俺の身長は168cmなので、背格好からすれば俺は少女の10倍以上の背丈になる。

まさに巨人のサイズだ！

(そりゃ、当然怖いだろうな...)

俺はそう思いつつ、少しだけ冷静になってきた。

少女は薄いレモンイエローの短めのワンピースで、ソックスもストッキングも着けておらず素足がスラリと伸びていた。

髪の色は明るい小麦色のツインテールで、目の色は茶色、肌は透き通るように薄い肌色だった。

(... 結構、可愛いな...)

あり得ないような現象を目の当たりにしつつも、俺の脳裏にはそんな思いが浮かんだ。

\*\*\*\*\*

途中略

\*\*\*\*\*

「あの...」

少女は恥ずかしそうにしながらも俺に言った。

「タライか何かにお湯を入れてきて貰えませんか?... 身体がベトベトして冷たいし、気持ちが悪いので...」

「... あ、ああ、分かった。タオルは、、、どうしようかな？」

俺が迷っていると、彼女は更に付け加えた。

「普通の手拭いをタライの横に敷いて下さい。跡、ハンドタオルかハンカチがあれば、それを被りますので」

「あ、なるほど」

俺は彼女の頭の良さに少し感心しながらも、立ち上がりつつ弁当箱を持ち狭いキッチンに持っていき、今度はチェストからフェイスタオルとハンカチを取り出してテーブルの上に広げ、その後バスルームに行き、給湯の運転を ON にして、風呂のタライに40度のお湯を深さ10cm位入れた。

(... 身体は小さいけど、感じる温度は同じなんだよな?)

俺はそう思いつつタライのお湯をこぼさないように持ってきてテーブルの真ん中に置いた。

そこで気が付いたが、タライの縁までは高さが12~3cmくらいあり、彼女が自力で入るのは難しいということだった。

タライは身長15cmの彼女にとっては、とっても大きくて深い五右衛門風呂のようなものであったのだ。

少女はちょっとの間、そのタライを見つめていたが、ついに意を決して言った。

「あ、あの、服を全部脱ぎますから、私をタライの中に入れて、身体を洗い終わったら、また出して貰えませんか?...」

「... あ、ああ、分かった」

俺はそう答え、彼女が服を脱ぐのを待った。

彼女は後ろ向きになり、まずはワンピースの背中のゴマ粒のように小さいボタンを器用に外し（巨人の俺から見れば）、スカートを捲り上げ、頭の上から脱いだ。

ワンピースの下はスリッパを着けており、それは両肩から紐を外し下にストンと落とした。

俺は自分でも気づかぬうちに、口を半開きに開けており、彼女の服を脱ぐ姿に見とれていた。

相当、昔に、高校2年の終わり頃に、同じ学年のヤンキーの女子に無理やり筆下ろしをさせられてからは、普通の女子とは、ほとんど経験らしい経験はして来なかったので、こんなに間近で女子の脱衣をじっくりと見たことは無かった。

少女はチラリと斜め後ろを見つつ、  
「あ、あんまり見ないでください...」  
と恥ずかしげに言ったことが、益々、興味をそそられてしまった。

「あ、ああ、でもお湯が深くて危ないから...」  
俺は訳の分からない言い訳をしていた。

彼女はそれ以上は何も言わず、誰がこんなミニチュアを作ったんだと思わせるような精巧に出来ているブラを外し、ショーツを脱いだ。  
俺はゴクリと唾を飲み込んでしまった。

彼女は胸と股間を手で軽く隠しながら、ゆっくりとこちらを向いてきた。

「お願いします...」

「あ、ああ、分かった」  
俺は左掌の上に彼女を座らせたが（そのとき、少しバランスが崩れた！）、彼女は両手を身体の後ろに突き自身を支えたが、そのため、恐らく B カップくらいの形の良い柔らかそうな胸が揺れ、可愛い股間の割れ目が見えてしまった。

（あ、パイパンなんだ...）  
俺はその景色に更に興奮してしまった。

\*\*\*\*\*

後は本文に続きます。

\*\*\*\*\*